

県単医療費助成金請求内訳書

(被用者保険加入者用)

市町村名

阿 賀 町

(受給者が記入して下さい)

| | | | | | | |
|-----------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------------|
| 制度種別 | 60 (県老) | 61 (県障) | 63 (乳児) | 64 (県親) | 65 (県幼) | 90 (単幼) |
| 市町村番号 | 15 | 受給者番号 | | | | |
| (ふりがな) 受診者氏名 | () | | | 性別 男・女 | 生年月日 | 明・大・昭・平 年 月 日 |

* 該当する制度種別、性別に○をつけ、受給者証に記載された市町村番号、受給者番号、受診者氏名、生年月日を記入してください。

* 月の初回受診日に、必ずこの用紙を医療機関の窓口へ提出するとともに、受給者証を提示してください。

* 同一月中に外来と入院があった場合には、外来分と入院分の2枚が必要です。また、保険薬局での調剤にも本様式が別途必要となります。

(医療機関で記入して下さい)

| | | | | | |
|------------|----------------------------|-----------------------------------------|---|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 給付割合 ※1 | 一般(7割) | 保険者番号 ※2 | | 自己負担適用区分に○ ※3 | |
| | 三歳(8割) | | | | |
| | 高9(9割) | 老人保健の受給者番号 | | 区分 I | 区分 II |
| | 高7(7割) | | | A | B · C |
| 診療年月 | 年 月 | 医療機関の所在地及び名称 | | | 医療機関コード |
| 入院 | 総点数 | 県単医療に係る一部負担金 | | 入院時食事療養に係る標準負担額 ※5 (県単医療分のみ記入すること) | |
| | | (保険 円 ※4) 1,200円 × 日 = 500円 × 日 = | 円 | | 210円 × 回 = 円 160円 × 回 = 円 100円 × 回 = 円 円 × 回 = 円 |
| 外来 | 点 | (保険 円 ※4) | | 公費負担内訳 ※6 | |
| 備考 | 長期疾病該当の場合、いずれかに○ 長 · 長2 | 円 | | 他法別番号等 | 公費分点数 |
| | | | | | 患者負担額 |
| | | | | | 円 |

※1 前期高齢者・老人医療受給者は、給付割合の「高9」・「高7」いずれかに○を、3歳未満は給付割合の「三歳」に、これら以外の者は「一般」に○をつけてください。

※2 保険者番号を記入してください。老人医療受給者の場合は、老人保健の受給者番号も記入してください。

※3 入院の際、又は「在宅末期医療総合診療料」若しくは「在宅時医学総合管理料」が算定されている場合は、限度額適用(標準負担額減額)認定証の適用区分と同じ区分に○をつけてください。

※4 入院の(保険 円)には、入院時の医療保険に係る患者負担金を記載してください。また、外来の(保険 円)には、「在宅末期医療総合診療料」又は「在宅時医学総合管理料」算定時のみ、当該診療料又は管理料適用後の患者負担金を記載してください。

※5 入院時食事療養に係る標準負担額は、県障、県親、乳児で標準負担額減額認定証の交付を受けている方が対象となります。

※6 他法別と併用の場合、「他法別番号等」欄に番号(設定がない場合は制度名)を記載の上、公費分点数、公費患者負担額を記入してください。



民國二十九年十月廿五日

各界人士函件摘要

| 姓名 | 住址 | 職業 | 內容摘要 |
|----|----|-----|------------|
| 張三 | 南京 | 律師 | 關於南京政府之建議 |
| 李四 | 上海 | 記者 | 關於上海新聞界之建議 |
| 王五 | 北平 | 學者 | 關於北平學術界之建議 |
| 趙六 | 重慶 | 公務員 | 關於重慶市政府之建議 |
| 孫七 | 漢口 | 商人 | 關於漢口商會之建議 |

此項函件係由各界人士寄交本處，內容多涉及地方建設、民生改善及教育發展等事。本處已轉請有關部門核辦，並將辦理情形隨時彙報呈閱。凡有類似建議者，請逕寄本處收閱，以便彙轉辦理。

此致
 各界人士
 秘書處 啟

（以下內容因模糊度較高，文字難以辨認，故略作整理）

民國二十九年十月廿五日
 秘書處 啟